

かお・人インタビュー

2014年 3月 7日(金)

国土交通省九州地方整備局

遠賀川河川事務所

光橋尚司 所長



◎九州地区との関わりや印象について

—九州には今回は初めての赴任ですが、これまでに出張や旅行で九州各地を何度か訪問するたびに、魅力的なまちや食、自然を楽しんできました。山奥の隅々

◎遠賀川河川事務所の26年度に向けた取組みは

遠賀川流域は、最近だけでも平成15、21、22、24年に大きな出水による浸水被害にみまわれました。平成24年7月の九州北部豪雨では、遠賀川流域でも彦山川上流部が被災しました。流域の自治体や住民の皆様が一番心配されている災害が水害であり、私どもが一番強く求められているのが水害対策です。

26年度は、25年度に引き続いて遠賀川中流の小竹地区、犬鳴川上流の福丸地区、彦山川と福地川の合流部の改修を行うとともに、新たに彦山川下流の抜本的

まで箱庭のように森や田畑がきちんと人の手がはいついて、ふるくから人と自然の関わりが深いところとの強い印象もっています。

遠賀川流域には、山本作兵衛さんの炭坑絵が世界記憶遺産に登録された数年前に訪れました。遠賀川流域はふるくから稲作が盛んで、明治以降には石炭を通じて日本の近代化や戦後復興を支えたところ。遠賀川は、流域の多くのまちの中心市街地を流れ、まちを代表する祭りの会場となっています。この地域の方々にとって、遠賀川はまちを囲む山々とあわせてふるさとの原風景にもなっている

ようです。遠賀川流域で街を歩くと、多くの方々に声をかけていただきます。開放的で人情に厚い方々が多く、豊かな自然と都市の便利さを両方享受できる、住みやすい地域だと感じています。

な改修に着手します。これらの工事は築堤や河道掘削、用地買収、橋梁の架替を伴いますが、皆様のご理解とご協力をいただきながら、着実に進めて参ります。

遠賀川下流の中間市にある中間堰は、治水上のボトルネックとなっていますので21年度から改築に取り組んでおり、早期完成に向けて26年度も取り組んで参ります。

河川環境について、地元の方々にお話しを伺うと、子供の頃は川で遊び、いまよりも魚がたくさんいたとおっしゃいます。遠賀川は鮭が上る川としてはほぼ南

限とされています。上流の嘉麻市には鮭神社があり、毎年1月には鮭を奉納する神事が行われています。いま鮭は毎年遡上していないようですが、鮭のふ化・放流活動のおかげもあり、25年には3年ぶりに確認され（河口近くの岡垣町の漁港で1尾、西川の支流で1尾）、数多くのテレビや新聞で報道されました。鮭の発見が注目を浴びたのは、“水質の悪い遠賀川”のイメージを痛快に覆し、遠賀川を愛する方々だけでなく多くの方々に明るい夢と希望を与えてくれた出来事だったからではないでしょうか。

大先輩がおっしゃった「川は流域を映す鏡」という言葉の通り、流域の自治体や皆様の努力が遠賀川の豊

かな生態系を再生し、それが人々の心をさらに豊かにしていきます。26年度は、河川改修にあわせて植生や魚類に配慮した水辺環境をつくり、樋門・樋管の合流部を水生生物が行き来しやすい構造にしたいと考えています。25年度に完成した遠賀川河口堰魚道公園は、景観と生態系への配慮でグッドデザイン賞をいただきましたが、魚道に新たな汽水域ができたことで汽水域を好む魚が繁殖しているのが確認されるなど、予想以上に生態系への良い効果が表れています。26年度もこれからの川づくりに反映すべく、学識経験者の助言を得ながらモニタリングしていきます。

◎治水事業を通じた地域の防災・安全対策、地域振興などについて

災害時に被害を軽減するためには、自治体や警察、消防、自衛隊など関係機関との緊密な連携と情報共有が鍵を握ります。普段から首長、署長さんや防災担当部署の方々と治水面の課題や、氾濫した場合の対応、情報の伝達・共有について意見を交換するとともに、関係自治体の水防訓練、地震防災訓練に積極的に参加しています。また、遠賀川の状況と内水氾濫などの状況を当事務所と自治体がきめ細やかに把握できるよう、当事務所の庁舎と雨量・水位観測所、CCTVカメラを結ぶ光ファイバ網と自治体庁舎のネットワークの接続に24年度から取り組んでいま

川は流域を映す鏡



す。これまで流域22市町村のうち4市町（直方市、小竹町、芦屋町、田川市）と接続しており、25年度内に3市町と接続する予定です。26年度も引き続き接続する市町村を増やしたいと考えています。

■ 直方市中心部 遠賀川の水辺



遠賀川流域では、地元の皆様と諸先輩のご努力下、自治体と住民の皆様、当事務所が共同で川づくりをする伝統が培われてきました。15年7月の豪雨では、飯塚市中心

市街地で甚大な内水氾濫がありました。この被害を受けて、大規模な河道掘削や排水機場の新設・増強、橋梁の架替を行いました。架け替える橋や掘削する河川数は

飯塚市のシンボルでしたので、設計段階から自治体や住民の皆様のご意見をいただき、地元から喜ばれる橋や公園をつくることができました。21年に土木学会デザイン



賞最優秀賞をいただいた直方市中心部の遠賀川の水辺も、住民の皆様がふるさとの川の将来像を描いた「遠賀川夢プラン」をベースに自治体と住民の皆様、学識経験者と共同で計画したものです。26年度も、改修や維持管理を行う際に自治体や住民の皆様“自分事”として川づくりに取り組んでいただけるよう工夫したいと思っています。



遠賀川多自然魚道

遠賀川流域には、約70もの団体が、川に対する情熱や夢、希望をもち、活発に活動しておられます。事務所管内の5つの出張所で、各団体の情報交換や川の将来を語り合ったりする交流会を定期的開催しています。25年度には、交流会に加えて懇談会（遠賀川圏域会議）を新たに設けて、行政機関や住民団体のネットワークの強化、川を軸としたまちづくりの推進に取り組んでいます。第一弾として、

遠賀川流域の水に関わるイベントや歴史・文化、住民団体の取組をまとめた「遠賀川流域連携魅力マップ」を作成しました。26年度にはマップを用いて遠賀川の魅力を流域内外に発信するとともに、皆様の関心に沿った個性的な活動を始めたいと考えています。

◎地元建設業界との連携強化について

遠賀川の改修事業を着実に進め、膨大な数の河川管理施設を適切に維持管理するためには、遠賀川流域の川と地域を熟知しておられる地元建設業界の皆様のご知恵と経験、機動力が欠かせません。24年7月の九州北部豪雨では、被災した箇所を昼夜兼行で復旧していただきましたし、今年度は技術者や資機材が逼迫しているなかで地元にも配慮しながら安全に施工していただいています。

地元建設業界の方々からは、新卒者の確保が難しいといった課題も伺っています。今後は率直に意見交換させていただく機会を増やして、イコールパートナーである地元建設業界の皆様とともに、遠賀川流域をどのように発展させて安心・安全を確保するのかを考え、形にしていきたいと考えています。

◎これまでの赴任地の思い出を

遠賀川河川事務所へ赴任する前に、フィリピン・マニラにあるアジア開発銀行で約4年間、アジアの途上国に日本の治水・水資源技術を導入する技術支援に携わりました。日本を長期間離れたことで、先進国の日本がアジアの途上国から学ぶものも沢山あること、土木

技術者の仕事のやり方が日本とアジアの途上国で同じであること、に気づいたことは大きな収穫でした。

◎出先事務所の長としての抱負を

私どもの事務所の役割は、流域のみならず北九州市の水源として高度に活用されるとともに洪水が頻発している遠賀川流域の安心・安全を確保し、川を通して遠賀川流域を発展させることだと考えています。

遠賀川流域の安心・安全を確保し、川を通して遠賀川流域を発展させる

そのためには、流域の自治体や住民の方々との信頼関係が欠かせません。遠賀川は「地域づくりの先進地」といわれていますが、それは諸先輩が一つひとつ築き上げてきたからであって、未来永劫続くとは保証されていません。庭園のように、常に心をこめて手を入れていなければなりません。自治体や住民の方々に素直な心で接して、私たちに何を求めておられるのかを把握したうえで、国土交通省のプロ集団として、技術に裏打ちされた合理的な解決策をタイミングよく提供する、という毎日の積み重ねが大事だと思います。また、信頼を得るために、できるだけ頻繁にお会いし、小さなことでも約束を一つずつ果たすことも大切です。普段外に出る機会があまりない職務についている職員にも、自分の仕事がどのように地域に役立っているのかを日頃から意識するようお願いしています。そして、職員には、遠賀川河川事務所のか

けがえのない一員として、自分の強みと弱みを把握し、強みを徹底的に強くして欲しいと願っています。

一人ひとりの強みが、遠賀川河川事務所というチームを一層強力にしていくと考えています。

◎趣味や休日の過ごし方などは

身体を動かすのが好きで、赴任後に、遠賀川沿いを走るハーフマラソン大会に2度参加しました。遠賀川の河川敷を毎朝ジョギングすると、直方市のシンボルである遠賀川と福智山の表情がその日そ

の日で違うのと、草花が季節の変化に敏感なのに驚かされます。休日は2人の子供と遊んでいます。3歳の上の子は、広々とした芝生がある遠賀川河川敷がお気に入りです。今年九州の他の県も家族旅行で訪れ、豊かな自然を満喫したいと思っています。



◎プロフィール

昭和44年12月 2日生

平成7年4月 建設省（現国土交通省）入省

平成16年4月 外務省経済協力局（現国際協力局） 課長補佐

平成18年4月 国土交通省国土計画局（現国土政策局） 課長補佐

平成20年4月 国土交通省土地・水資源局（現水管理・国土保全局） 課長補佐

平成21年5月 アジア開発銀行 水資源専門官

平成25年4月 現職